

野木小の歴史  
**同窓会報**  
 第 17 号  
 平成 17 年 12 月  
 野木小学校同窓会編集部



第42回卒(昭和26年)兼田  
 同窓会長 福井康二

ご挨拶

同窓会員の皆様方におかれましては、いよいよご壮健でご発展のこととお慶び申し上げます。今年度総会におきまして、田中前会長の後任として選出されましたが、その器でもない中、最終的には、愚人も省みず慣例でお引き受けするに至りました。故に各位の特段のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。日頃、県道から母校の体育館壁に、際立って大きく見える「輝きのある野木の子」の生き生きとした文字がよく目に入ってきます。

このような温もりをさらに深めて頂けるのも、地域と学校が一体となっている証であると確信しています。同時に

園に囲まれた校舎、プール、休日にも利用されているグラウンド等どれもが昔と変わっていません。また、恵懐公園と山際に凛と立つ忠魂碑は、地区の礎として、桜季には特に映え七十年程の永年の四季を迎え、また来る年に耐え野木の里を見守るが如しです。これ等の財産は、すべて野木の大先人や故人の努力の積み重ねであり、当時の大変な苦労が偲ばれます。同時に何ものにも代え難き存在であります。

こうした素晴らしい一本化した環境は、他の学校を見ても稀なもので、真の大きなこの里の誇りとしてさらには、代え難き財産として護り継ぎたいものです。

ところで今年、上中町は三方町と合併し、若狭町が誕生しましたことは、ご周知の通りだと思います。九月にはその記念式典もありました。申し上げて良いかは別として率直に言って、若狭町の端から端までを理解された若狭町民はそう多くはないと思います。そんな大きくなった町の中で「野木の里」の存在感が薄れたと感じておられる方も多いのではないかと思います。これとて、国の財政改革の一つであり、その施策として仕方のないことです。

同窓会長退任ご挨拶

第42回卒(昭和26年)杉山  
 前同窓会長 田中庄之祐

編集委員の皆様と事務局を担当くださいました諸先生方のご尽力に深甚のお礼と感謝を申し上げます。同時に全国各地に在住、ご活躍の皆様がこの会報紙が同窓、同級生との更なる旧交の一助となれば極めて幸甚に存じます。

今後共にこの同窓会が会員各位のアーチにより、また、同郷心という特別な愛によって、野木の里を益々盛り上げて頂くことを乞い願ひ、なによりも子ども達の逞しい成長と母校の発展、会員各位のご隆盛と群生和楽、志徳千祥ならんことを念じつつご挨拶といたします。

役員の方々、及び、学校の諸先生方など、多くの皆様の格別なご指導、ご支援、ご協力を賜り、お蔭様にて大過なく二年間の任期を全うすることが出来ました。ここに厚くお礼申し上げます。尚、会長の後任には、副会長の福井康二氏が、また、新副

会長には、伊藤佐栄起氏と田中肇氏が就任されました。

顧みますと、六年前に新田会長の副会長として役員の仲間入りをお付け頂いたのが同窓会とお付き合いさせて頂いた

だきつかけでございました。この会の主な事業であります

会誌、会報の発刊に際しては、数多くの方々のご協力を得て名簿、住所などの確認を、また、校正の段階では編集委員を中心

に十分吟味させて頂いた。結果的には間違いなど、不備な面が多々ありましたこと、誠に申し訳なく、何卒ご容赦くださいます様お願い申し上げます。

幸い、野木の学び舎も、指導力が極めて旺盛な先生方に恵まれ次世代を担う子供達が多く育っています。頼もしく思います。

昭和五十九年に先輩方のご苦勞、ご尽力によつて、設立、誕生した歴史と伝統豊かな野木の学び舎の同窓会を後輩達が永遠に継承することを願望するとともに、福井新会長を中心

に近年に迫つた野木小学校創立百周年の節目の年に向け、益々飛躍、発展の道を進むことを祈念し、言葉足りませんが退任の言葉とさせて頂きます。大変お世話になりました。

の力によつて子どもたちを育てていこうというものです。本校でも「地域・学校協議会」を設立し、「地域とともに輝く子」をテーマに活動してまいりました。野木地区はこれまでから子どもの健全育成については大変熱心に取り組んでこられた地域ですが、今年度はさらに力を入れていただきました。

たとえば、老人会の皆様による「稲作体験」や「見守り隊」の結成、幸せ会やあかね会の皆様との交流学習、ホリデイスクールでは、「りふれっしゅ・ままたあ」の皆さんとのリズムダンス、六年生保護者の皆さんによる「池作り」、また地区体協の各種行事や青少年健全育成会主催の「ハーブコンサート」など、子どもたちの瞳や個性が輝く活動が展開されました。また、日常的に「読み聞かせ」「園芸」「音楽」などの学校ボランティアとして支援していただいています。さらに、若狭町として初めての「縄文まつり」では「きらめキッズwithままたあ」としてオーブニングステージで、野木の子どものパワーを観客にアピールすることができました。



学校長（堤） 内藤 讓 治

### 地域とともに輝く子

理解とご支援により「輝きのある子」の育成に専念できましたこと厚く御礼申し上げます。さて、今年度本校は、「福井型コミュニケーションスクール」モデル校の指定を受けました。この事業の趣旨は、家庭や地域が学校と連携し、社会全体

の力で育てていこうというものです。本校でも「地域・学校協議会」を設立し、「地域とともに輝く子」をテーマに活動してまいりました。野木地区はこれまでから子どもの健全育成については大変熱心に取り組んでこられた地域ですが、今年度はさらに力を入れていただきました。

たとえば、老人会の皆様による「稲作体験」や「見守り隊」の結成、幸せ会やあかね会の皆様との交流学習、ホリデイスクールでは、「りふれっしゅ・ままたあ」の皆さんとのリズムダンス、六年生保護者の皆さんによる「池作り」、また地区体協の各種行事や青少年健全育成会主催の「ハーブコンサート」など、子どもたちの瞳や個性が輝く活動が展開されました。また、日常的に「読み聞かせ」「園芸」「音楽」などの学校ボランティアとして支援していただいています。さらに、若狭町として初めての「縄文まつり」では「きらめキッズwithままたあ」としてオーブニングステージで、野木の子どものパワーを観客にアピールすることができました。

ところで、マスコミが「学力低下問題」をしきりに報道しています。そんな中、本校でも、児童が確かな学力を身につけるよう全教職員が努力しています。今年度は、教育の情報化の一つとして、電子情報ボードの活用を推進してきました。子どもたちにも好評で、その成果も上がつてきています。そんな子どもたちの学習意欲を支えているものは、自尊心と愛情が感じられる家庭です。和やかな地域と家

族の愛情を感じる中で、野木の子どもたちは、伸び伸びと自分の可能性を磨いているようです。最後になりましたが、会員の皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げますとともに、今後とも、ご支援・ご指導賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。またコミュニケーションスクールとして「開かれた野木小学校」へ気軽に立ち寄りいただけますことをお願いし、ご挨拶いたします。

野木小学校同窓会、そして地区民の皆様には益々ご壮健のこととお慶び申し上げます。この度、皆様に変なご指導、激励を賜り、支えて頂き、初議員の一人として高い壇上の舞台にあげて頂いたことを生涯の肝に刻んで、感謝を申しあげたいと思います。

さて、新生若狭町が誕生し、新町づくりに参加しながら、熱い思いと夢と行動が、未来を託すことを信じて「笑顔でずっと住み続けたい野木の里」

を目指して、その実現に向け、情熱を注ぎながら、日々努力しているところでございます。せっかくの機会でございますので野木地区の高齢化はもちろん、少子化、人口減少化問題に関わる「自然とくらしの再考について」の思いの一旦を述べさせて頂きます。

ご存じの通り、野木地区は旧上中地域の内でも他地区よりも人口減が大きく特に幼児や子供達の減少を余儀なくされ、本当にさみしい気持ちと、こ

### 発刊に寄せて

第52回卒（昭和36年）上野木

町議會議員 清水利一

れでよいのかを痛切に感じて  
いる者の一人でございます。

今「若狭町を一本の樹木に  
たとえると、各集落は花や実、

地区は根や木にあたり、わが  
田舎が衰弱すれば栄養が送れず、

樹全体が衰え枯死すると心配  
されるのですが、歴史と

土着の心が息づくわが野木地  
区には、まだまだ栄養が十分

にあると思えますし、わが地  
区を元気にすることが若狭町

に活力を取り戻す処方せんに  
なる」と信じて疑いません。

自然、農業がなくなれば人  
間は生きていけません。地域

の人が目を輝かせて生活して  
いたら、それが本当の地域お

こしになるのではないでしょ  
うか。

農業がダメと若者は都会へ  
と憧れて出ていきますが、大

自然の素晴らしさに気づいて  
いないし、自然のよさがわか  
らないと思えます。

自然との共生、環境への対  
応も、今こそ大人達が真剣に

考え、次世代の子ども達と一  
緒に汗しながら取り戻す努力

が不可欠だと思えます。

私は野木に生まれ、野木で  
育ったことを誇りに思うと同

時に、今後とも地域の活性化  
の為、地区の諸問題による「住

民の声」を反映させ、地元野  
木の地域再生を積極的に取り

組んで行くことを誓うと共に、  
全力で施策の為の情熱を注ぎ

たいと存じます。同窓会員の  
皆様には、尚一層のご指導、ご

鞭撻を賜りますようお願い申  
しあげます。そして、同窓会

のますますの発展と、会員の  
皆様のご健康をお祈り致します。

### 教育委員に就任して

第49回卒(昭和33年) 下野木

教育委員 倉谷典彦

秋も深まり、冬支度前のこの  
頃ですが、同窓会員の皆様には  
ご健勝にてお過ごしのことと  
存じます。

平成十七年三月三十一日大  
同団結の中、若狭町が誕生いた

しました。この意義ある時に  
私ごときが教育委員の大役を  
仰せつかる事になりました。

もとよりその器ではございま  
せんが、多くの教育長、教育委  
員長を輩出している野木小学

校同窓会、先輩の教えを糧に精  
一杯努力いたしますのでご指  
導いただきますようお願い申  
し上げます。

最近の教育界は、国の方針も、  
ゆとり教育の推進から見直し

へと方向転換するなど、揺れ動  
いておりますが、教育現場もさ

ることながらご家庭のご心配  
も大変だと思えます。

過日、新生若狭町管内の小中  
学校を訪問させていただきました。

野木小学校におきまし  
ては問題もなく、熱意ある内藤

校長の下、「輝きのある野木の  
子」の育成を目標とした教育が

行われており、元気に活動す  
る児童の姿を拝見いたしました。

児童の教育には、二十一世紀  
を担う社会人になるための基

本となる素質が必要であり、  
家庭教育、学校教育と役割分担

のもと両輪がうまくかみあつ  
ていかなければならないと思  
います。

学校教育は、国・県の指導の  
もと地域特色を生かしながら

学力向上はもちろん児童の能  
力発掘が図られなければならない

なと思えます。

家庭教育については、父母・  
家族の皆さん一体となった社  
会人としての躰が大切ではな  
いかと思えます。毎日のように

マスクを賑わす事件の背景  
には、家庭教育の欠如と思われ  
ることが感じられるのは私だ  
けでしょうか？動物の世界では、

ライオンの子育てが有名ですが、  
生活環境の厳しい中、愛情ある

厳しさの家庭教育が今大切で  
はないでしょうか？

素人の教育委員が生意気な  
ことを申し上げましたが、地域

の皆様の声を教育行政に反映  
すべく努めさせて頂きまので、

### 旧職員からの便り

#### 校旗新調によせて

若狭町海士坂(平成三年度の教頭) 内藤憲司

この度、会報寄稿の依頼を  
受け、久々に原稿用紙と向き  
あう機会をいただきましたこ  
とに対し、心より有難く喜ん  
でおります。三十八年間の教

職を去り、これまでにお世話  
になりました数々の学校の思  
い出は忘れることはありません。

野木小学校では、極めて短  
い一カ年間の勤務でありまし  
たが、いくつかの思いがあり  
ました。着任して学校の様子

を知るために、保管してある  
箱物を拝見していると、校旗

と出会い、その古さと本校の  
伝統を伺い知ることができま  
した。校旗の出番は、入学式  
と卒業式と運動会の三回くら  
いがどの学校でも同じようす。

ご指導・ご鞭撻を頂きますよう  
お願い申し上げご挨拶といた  
します。



三世交代( H17.11 )

も破損箇所がみられ、古いの  
は伝統だと放っておくことが  
気になりましたので、当時の  
同窓会長の福田善正先生にお  
話ししておりました。先生も「そ  
ろそろ新調してもよからう。」

「特に申し出がなければわたしのおみやげにしたい。」と言われ、今ある新調の校旗の寄贈となりました。

校旗の新調に当たり事務的なお手伝いをさせていただいた思い出が、私の野木小学校へ置いてきた最も印象深いものです。というのもおそらく嶺南一円の小学校の中でも最も高価なもので、京都の西陣の職人が手がけた作品で誇れる自慢できる校旗なのです。たとえ町名が変わっても幾久



ひょうたんづくり作品展示

しくボロボロになるまで大切に取り扱い受け継いで欲しいものです。

子ども達と一人一鉢の小菊作りで昇降口の花壇を盛りあげたり、瓜生小で学んだひょうたん作りも学年限定で取り組み、思い出の作品を作ったことも心に残っています。

校舎内外の環境美化にも力を注いだ思い出もありました。特に、グラウンド条件は町内の立派さでありました。校内使用以外にも社会体育等に開放されていたため、周囲の草刈り作業に追いまわされ、年一回のPTA奉仕作業前後の整美のため汗を流した思い出も、今となつては身体の疲労を忘れた昔話として心に大切にしまつております。勤務は一年間でしたが、結構思い出が多く、当時の子ども達と上中中学校で再会できたことは何よりも嬉しい思い出でした。

## 野木小学校での思い出

若狭町長江 長谷光城

私は、昭和四十二年から四年間、野木小学校に勤務させて頂きました。

通勤はJRやバス、または

います。当時の道路は舗装してありませんでした。また、校舎は木造で職員室には大きな火鉢がありました。その校舎も勤務して二年目に鉄筋三階建てになりました。

地区公民館はなく、小学校が中心でしたから、地区の皆さんが、夕方、学校に寄られているんなお話をされます。私もその輪のなかによく入れて頂きました。地区の行事も学校が使われ、まさしく、地域と一体となった野木小学校でした。

赴任した年、三年生の担任になり、その後、四、五、六年生と持ち上がりました。三年生の時に、親子による読書感想文集「ありんこ」を育友会学年会で発行して頂きました。その時から、この三十三名の学年を「ありんこ学級」と呼ぶようになりました。

四年生も読書感想文集、五年生の時は詩集、六年生の時は卒業記念文集と四冊もの文集が私の手元に残っています。しかし、とても悔しく寂しく残念に思うことは、杉山で一人、堤で三人もの男子が若くしてこの世を去っていることです。「ありんこ学級」は今、二十九名なのです。文集を手にする

度に涙が出て止まりません。教頭先生は私の中学校時代の恩師、松宮昂先生でした。

教頭先生にいろいろ教えて頂きながら、図画工作科の研究ができ、とても幸せでした。

そのなかでも思い出すのは、自主研究・造形教育研究発表会が野木小で開けたことや「ありんこ学級」で卒業記念制作として大きな油絵を描かせることが出来たことです。今もその絵が踊り場の壁面を飾っています。先日、その絵を久しぶりに見る機会がありました。なつかしい気持ちでいっぱいになりました。

また、赴任した年の夏、育友会の奉仕作業で校庭の片隅に赤土で窯を築いて頂きました。

### 会員からの便り

## なくなつた修学旅行

第36回卒(昭和20年)

玉置 奥本哲郎



卒業記念制作・油絵の前(ありんこ学級・S46.1)

小学校の頃のことを思い出そうとすると、戦争の影響があちこちにあつたのだなあと

思わさせられる。今そう思うのであつて、当時はそんなこ

とは思いも考えもしなかつたのであるが。

小学校が国民学校になり、疎開して来た児が何人かいて都会の風をちよつぱり嗅いだ

こと等の他、物資不足、食料難を少しでも補うためチョコ麻採り、イナゴ採り、松根油の抽出などをし、出征兵士の家へ稲刈りの手伝いにも行った。今、はよりの体験学習も行ったのであるが、学習などと言ったイメージでなく正に実践作業であった。この様な作業からも知らず知らずの内に得られたものは大きく、決して無駄ではなかった。その意味では貴重な体験学習と言えたかも知れない。

学校内でも校庭のあちこちがさつま芋畑に変えられ、旧校舎東端の特別教室はエリ蚕の飼育室になっていた。国策として推められたらしいが、普通の蚕と違い餌は桑でなく槐（エンジュ）の葉、しかも蚕棚にじっとして居らず、壁や天井を這い廻り何所にでもマユを作る厄介者。飼育は高等科の人達の仕事で、直接の関係は無かったが、部屋一面くものす状で、外から覗くのがさえ気味悪い思いをしたのを憶えている。

最も悲しかったのは、我々の学年から修学旅行がなくなったことである。参宮旅行と称して京都、伊勢、皇大神宮と廻るのが慣わしであったが、

修学旅行を参宮旅行と言いつくしたのも戦時体制のいゝんな制限の対応だったらしい。それが戦争拡大に伴い、全国的に中止（禁止）になったのだから止むを得ないと思つた。最近の新聞に「六十年目の修学旅行」などと記事が載ると、我々と同世代だと感慨を覚える。

受け持ちの先生も毎年変わり、持ち上がりの経験は一度もない。六年生の時など学年途中の交代があつた。先生方の軍隊召集などの影響だと思ふ。六年間で七名の先生に担任して頂いたが、多くが物故者となられ、佐野先生（現姓・大森）お一人がご健在。若狭高校近くにお住まいなのでショッピンなどで時々お逢いする。お逢いすると、こちらは童心に還つたような気分になれ有難いと思つている。



## 母校の思い出

第40回卒（昭和24年）

玉置 奥本京子

私は小学校を卒業してから五十余年にもなります。月日の流れの早さに驚きつつ、遠い昔を思い出し筆を執らしていただきます。私は杉山に生まれ、縁あつて玉置に嫁ぎ現在も元気で暮らしております。私にとってほととずる母校であります。この度は寄稿の機会を与えて頂きありがとうございます。会報を読ませていただきます。会報を讀ませていただく度に先輩後輩の顔を思い浮かべながら時代時代をなつかしんでおります。私が入学したのは堤地籍にある分教場でした。先生は故中川善吾先生でした。ずい分前から居られたのでおじいさんの先生だなあと思つた記憶が残っております。国民の祝日には、本校へ行きました。その時私の祖父が自転車に乗せてくれ、学校へ着くと「はかま」をはかしてくれた時みんなが私をぐるっと取りまいてとてもはるかしかつた事もありました。

四年生からは本校へ通い友達とはすぐに仲よくなりました。担任の先生は山田四香枝先生

こうして手塩にかけてお世話になつた諸先生方のご恩はいつまでも私の心のささえとなつております。なつかしい思い出を残して下さつた私達の恩師も三人も亡くなられ淋しいです。今は新しい学校になりましたが当時のおもかげは私の心の中にはつきりと残つて居ります。

校庭の前を川が流れており、石の橋があり石の門をくぐる二宮先生の銅像に頭を下げました。川のふちには桜の花が咲き、大きなしだれ柳が川の流れにそいながら風になびいていました。

こののどかな風景の中で丈夫で学校へ行けた事、感謝して居ります。

私達同級生は二十八名ですが、五人もなくなくなり淋しいです。女は七名います。月に一度集まつて大正琴の練習をしています。先生は中学校の恩師速水先生です。いつまでも生徒の頃の様に可愛く思えると言つて喜んで教えて下さっています。

今年の七月に野木小学校の交流学習に参加しました。「大正琴は初めてだ。」と言つて子ども達は熱心に習ってくれました。最後にみんなで合奏

をし、とても楽しく、私達五十余年前の昔を思い出し、童心に返ったひとときでした。又一人一人が、お手紙を書いてくれて、みんなで感動して読ませていただきました。元氣あるすなおな野木の子供達に感心して帰りました。

私達同級生も来年は古希を迎えようとしています。

自分の幸せを積み重ねて行く節目に、学校の交流学習に参加させていただき、地域の方々のお役に立てたらとはり

## 思い出

第61回卒(昭和45年)

小浜市東市場 大野木美和子

今回、同窓会報第十七号への寄稿依頼を頂き、同窓会報第十五号に目を通す機会がありました。そこに「思い出は旧校舎と少年野球」という題で、田中さんの書かれた旧校舎の配置図が掲載されていました。確か今の校舎は私が六年生の頃に完成したと思いますが、懐かしく思い出されるのは、やはり古ぼけた旧校舎の方です。どこに何があったかという記憶は朧げですが、

きっております。のどかな自然に囲まれた母校を目の前にして先輩後輩の方々にお会いする度に親しく笑顔で声をかけ合って今日まで来られました。又仲のよい友達と助け合いながら元気に幸せな毎日を送っております。最後にになりましたが、母校の発展と会員皆様の御健勝をお祈りします。ありがとうございます。

いう草をしゃぶったり、山中へ入りあげびやシイの実を探したりしたことを思い出します。今は様々な社会情勢から道草も許されなくなりました。登下校そのものが自然とふれ合える、豊かな遊びとなっていました。農作業で汗を流しておられる地域の方々も、私達の帰る姿を温かく見守ってくださいました。あの頃は、自然の恵み、地域の方々のやさしさ等を当たり前のよう受けとめていました。今になって改めて、それがどれだけ貴重なものであったのかに気付かされます。あの頃はやさしさだけでなく、厳しさもありました。高学年での鼓笛練習やソフトボール練習は結構つらいものがありました。先生との信頼関係が築けていたので、どんなにつらい練習でもついていきました。おかげで、多少の困難は乗り越えられるたくましさを持った今の自分があります。貧しくても日々たくましく明るく過ごした私達の小学校時代ですが、今の野木小学校の子ども達の元気な明るいあざさつを聞くと、私達の時代と環境は違いますが、心豊かに健全に育ってくれているな

あとうれしくなります。これも地域の皆様、家庭の皆様、学校の先生方の愛情のおかげと感謝しています。今後も野

## 故 川端貫一先生

第67回卒(昭和51年)

小浜市 莊司真名美

今年の一月、何年ぶり？の野木小学校の同窓会がありました。ウキウキした一同の懐かしい笑顔と話に花が咲き、時間の経つのも忘れ、気分はすっかり小学生に戻っていました。

この同窓会に六年生の時、担任していただいた川端貫一先生もいらつしやる予定でした。しかし、当日は身体調子を崩され欠席でした。楽しみにしていたのに残念という気持ちで様々なことを思い出しました。あの頃、上中学校より赴任され、初めて私たち六年生を担任されたこと。親しみを込めて先生のことを「バタバタ」とか「くちびる」とか呼んでいたこと。熱心な仏教信者で仏教の話をよくされたこと。若くて、明るいパワーある先生は、学生時代よりバレーボールをされていて、休日の試合中にアキレス腱を切つてしまい、しばらく学校を休まれたこと。話しは尽きません。

一ヵ月程して友人のメールに驚きました。川端先生が亡くなられた！早速、都合のつく同級生数名で勝山の先生の実家へ弔問に伺いました。遺影は三十年前と少しも変わらず眼鏡をかけた、ふつくらとした笑顔そのままでした。「もう少し早く同窓会したらよかつたね...」。「もう一度会って話したかつた...」と口々につぶやいていると、「同窓会にはとても出席したがってました...」と奥様。でも咳がひどく、身体が動ける状態でなかつたとのこと...。上中学校や野木小学校での在籍中の写真を見せて頂き、また闘病

中の様子などをお聞きし、何  
度も涙を流しました。

振り返れば、先生や両親に  
心配や迷惑をかけたなり、口答  
えや反抗をしたり：というい  
ろありましたが、結婚して三  
児の親となり今になって、あ  
の頃の先生や両親の気持ち  
がわかった気がします。ありが

### 蛭とオオサンショウウオ

第73回卒(昭和57年)

広島市 藤田晋一郎



とうございました。小さかつ  
た心も身体も元気に大きくな  
った姿を、先生にみてほしか  
ったです。

志まだ半ばで：五十四歳と  
いう若さで急逝さ  
れた先生を悼み、  
心よりお悔やみ申  
し上げます。

私の小学校時代の思い出は、  
「夜に乱舞する蛭達」と「耐釣  
り」と「雪で作った滑り台」で  
ある。早いもので小学生の頃  
といえども二十数年も前の  
事になる。確か昭和五十六年  
に「五六豪雪」と呼ばれる大雪  
が降り、二メートル位雪が積  
もった事があった。列車が止  
まったり、車が立ち往生したり、  
大人達は大変だったと思うが、  
我々子供達は大はしやぎであ  
った。地面に積もった雪と屋  
根雪が繋がりが、頑張れば梯子  
無しで屋根の上まで登る事が  
出来た。当時飼っていた犬の  
源太と何度も屋根から滑り降り、  
最高のスリルを味わった。ま  
さに犬並みに飛び跳ねていた  
わけである。今思えば、相当

危険だったような気がするが、  
親は見てもぬふりをしてくれ  
ていたのだろう。  
そして、暖かくなるとよく  
野木川で釣りをした。あの頃  
は何も考えておらず、鯉用の  
餌を針に付け鮎を釣っていた。  
かなり大きいやつがたくさん  
釣れたと記憶しているのだが、  
魚拓をとっていないので、何  
センチ級であったのかは分か  
らない。ある日ついに、鯉と  
思われる強い引きに遭い、立  
て掛けてあった竿ごとすっ飛  
んで川に消えてしまった事が  
あった。それ以来、あの大物  
を釣り上げてやろうと頑張っ  
たが、一度もあの引きは来る  
事なく卒業してしまつた。  
夏が来ると、蛭がいたる所

で飛び回っていた。今は野木  
の里でもあまり見られなくな  
つたのではないだろうか？僕  
は現在、仕事の都合で広島県  
に住んでいるが、庄原市や北  
広島町など山間部では、今で  
もたくさんの蛭を見ることが  
出来る。更に、特別天然記念  
物である「オオサンショウウ  
オ」なるものが道路脇の小川  
で泳いでいたりする。現在で  
もこの様な生物が見られるのは、  
広島県の地形や気候が大いに  
関係していると思われるが、  
一番の要因は、地元の人達の  
努力ではないだろうか。護岸  
工事をなるべく自然に近い形  
で行ったり、水を汚さない工  
夫をしたり、生物の住みやす  
い環境作りに長年取り組んで  
きた成果が現われている。  
上中町から若狭町に名前は  
変わっても、昔見たあの美し  
い野木の風景をいつまでも残  
して欲しいと願う今日この頃  
である。



藤田晋一郎氏・番組制作中

### 充電地

第82回卒(平成3年)

舞鶴市 居関博子

高校卒業後、大阪の看護  
学校へ行き就職。そして、  
昨年舞鶴で再就職し看護師  
として働かせていただいたて  
います。  
私の中で地元「野木」は、  
離れてからずっと温かく、  
元気を与えてくれる充電地  
です。看護学校での厳しい  
寮生活や、働きたしてから  
の力不足による挫折の時期  
には決まって、小学校から  
の幼なじみに電話をかけて  
いました。お互いの近況報  
告や思い出話に時間はあっ  
という間に過ぎ、長電話を  
終えた後は悩み事も忘れて  
いたのを思い出します。(今  
もそう変わりありませんが  
…)又、一昨年の冬の同窓  
会では、野木小学校の友人達、  
担任の先生方と、懐かしい  
顔ばかりで本当にタイムス  
リップしたようでした。大  
人顔で背が伸びていたり、  
髪が長くなっていたりとい  
た目は違っていますが、みん  
な笑い方は昔のままです。  
それが新鮮で楽しかったです。

お互いの現状に驚いたり大  
笑いしたり本当に楽しい会  
でした。野木の仲間との時  
間は、私も小学校の頃の私  
になつて楽しめる一番安心  
できる場所です。  
そして、野木の地も私の  
自慢の一つです。小学校の  
頃は当たり前だった集団登  
校や下校の際の草遊びや虫  
の声。ランドセルの重さも  
忘れて石けりをしたあせ道。  
休みの日は秘密基地を作る  
事に一生懸命でした。今考  
えると危険だと思ってしまう  
ありましたが、それらはす  
べて、活発で純粋な友人達  
と野木の自然があつてこそ  
の経験だったと思います。  
地元を離れ、改めて野木の  
美しい自然と人の温かさを  
感じています。そして野木  
の地で自然の中でしか学べ  
ない事を経験できたことを  
ありがたく感じます。実家  
に帰り、自転車で競争して  
いる小学生を見かけると、  
自分の自然児だった小学校  
時代と重なって見え、今も

変わらないんだと嬉しく思っています。

これからの人生で、どんな悩みや壁があるかわかりませんが、今後も野木の仲間、自然で十分に充電しながら進ん

## 新成人からの便り

### 夢

第89回卒(平成10年)

堀 内藤 香里



で行こうと思います。野木の地で伸び伸びと育て下さいました地域の方々、先生方、そして家族に感謝しています。

で誰かが笑っていてくれることが私はとても幸せです。遠くから笑い声が聞こえるだけでも嬉しくなってきました。どんな病気であつても、その人が生きる喜びを感じてもらえるような関わり方が出来るようになりたいです。寂しい、苦しい、悲しい、痛い…そんな思いを一緒に感じて理解して、患者さんの身体と心を見て聴いて、支えていけるような看護師になりたいです。そしてたくさんの人に笑っていてほしいと思います。

私が今こうして自分の夢を真つ直ぐに追いかけていられるのは、たくさんの人に支えてもらったからです。私の夢を喜んで受け入れてくれた家族、否定せず温かく応援してくださった先生方、友達。とても感謝しています。本当にありがとうございました。小学生として小さな身体で築いた人生の土台をしっかり踏みしめて、これからも頑張っていきたいです。



## おもいで

第89回卒(平成10年)

杉山 橋本 武裕

私が野木小学校を卒業してから、もう七年経ちました。でもこの七年間に、いろいろな事があつたせいか、アツと言う間に過ぎた様に思います。今私は、小学生の頃にははるか遠く感じていた二十歳になりました。

東大寺に行ったときも普段なら面白くない事でも、友達と一緒にだったのでとても楽しく見学でき、大阪の遊園地では友達のおかげで楽しさが何倍にもなつたことが思い出されます。

この原稿を依頼された事きっかけに、野木小学校時代の事を思い出してみました。最初に思い浮かんだのは、修学旅行でした。それで、同級生にも聞いてみました。あまり覚えていないと答える人もいたけれど、私と同じ修学旅行が一番の思い出と言う人、他には集団登校でのいろんな出来事やランチルームでの給食・運動会での一輪車演技・スキー遠足など様々な事を思い出させてくれました。いつも周りには、たくさんの仲間がいてくれた事に感謝しています。

小学校生活六年間での様々な出来事すべてが大切な思い出です。毎日が本当に楽しかった。この思い出と一緒に過ごした友人を一生大切にしていきたいと思っています。また、新しい生活の中で友人に支えられている事も忘れないうで頑張っていきたいと思っています。



小学校の卒業式、答辞の中で私は「看護婦さんになりたい」と言つたのを覚えています。小学校時代に私は色々な経験をし、自分が病気になつたりしたことで看護師になりたいと思うようになりました。生きることにも不器用で辛い思いもしました。でも看護師になりたいという強い思いが私を支えてくれました。だから卒業式が終わった後、ある一人の先生が「香里ちゃんは優しい看護婦さんになれるよ。頑張つてね。」と言つて下さつたのが嬉しかったのを忘れられません。

高校卒業後、看護学校に進

学し自分の夢に一步近づくことができました。本格的に看護を学ぶようになってからは、看護師という仕事の大変さと素晴らしいと同時に感じてきました。看護師になるということは想像していた以上に大変なことで、辛いと思うこともあります。しかし、その分感動や喜びは何倍にも大きくなつて返つてくるのです。その度に、看護師への道を選ぶのが本当に良かったと思います。私は人の笑っている顔が好きです。とても温かくて安心します。それは私の周りにいた人が皆、笑っていてくれたからだと思います。目の前

修学旅行でも、初めての経験ばかりで緊張してなかなか寝つけなかつたこと、奈良の

みんなの郷土若狭町 作文コンクール

中学年の部

銅賞

若狭町の未来

三年 田中健大

ぼくの考える若狭町の未来は、今よりもっともっと、みんなが安心して楽しくくらせる町になっていくことです。ぼくの考える安心は全部で三つあります。

一つ目は小さな虫から人間までが、安心してすめるかんきょうのいい町になっている事です。電気自動車がはしつたり、ごみなどをあつめてしよりするリサイクルロボットが町中を走り回っています。そのおかげで山、川、海などがきれいになり、いつまでも食べ物にこまらない町になっている事です。

どうしが顔を見ながら話ができるようになったりしている事です。

三つ目の安心は、ぼくたちが遊んだり、べん強したりするしせつがたくさんあることです。体をうごかして遊ぶ遊園地や、見たり聞いたりする実けんをするしせつができてほしいです。そして、赤ちゃんは赤ちゃんで遊べる所もいっぱいつくってほしいです。こん虫はくぶつ館や動物園、つりぼり、水ぞく館などのしせつがいっぱいあるといいです。水ぞく館は魚をさわれたりする水ぞく館がいいです。ハイキングなどしせんの中で遊ぶしせつも、若狭町の中の大きなダムといっしょにつくってほしいです。こんな町であれば若狭町にすみたいと思う人がどんどんふえてくると思います。

高学年の部

銅賞

若狭町の将来

五年 中川愛理

みんなのために新しい物ができるのもいいですが、若狭町にしかないくま川じゅくや、じょうもん時代のいせきなどの古くてもだいいな物があります。名水や湖などしせんをまもりながら、古くてほしい

な物も未来にのこしていかなければならないと思います。ぼくは、大きくなったら若狭町で仕事をし、ぼくの考える若狭町になるようにがんばりたいです。



わたしは、三方町と上中町が合併して若狭町になった時、上中町がなくなってしまうのはさみしいなと思いました。でも、せつかく新しい町、若狭町ができたのだから、よその人に自まんでできる町になつたらいいなあと 생각합니다。

わたしは、三方町と上中町を捨てない心と拾う心を持つたら、すぐにきれいな町になると思います。

わたしは、若狭町がきれいになっていなくて、景色がきれい、全国からお客さんがたくさん来るような町になつてほしいです。

また、おじいさんやおばあさんだけで住んでいる家や一人ぐらしの家も多いので、おじいさんやおばあさんはさみしくないのかなあと 생각합니다。そして、若狭町内には、お店や会社もあまりないので、人が集まるところは少ないです。それに、わたしたち子ども

わたしは、よその県や町に行つた時、道路にゴミが落ちてると、いやな気持ちになるし、その町全部の印象が悪くなります。町民みんなが道に落ちてい

は十二人しかいないので、体育は六年生といっしょにしています。もつと若い人や子どもがたくさんいて、活気のある町になつたらいいなあと 생각합니다。そして、わたしは、小浜にはたくさん友達がいるけれど、三方には合併したばかりなので、友達や知り合いもほとんどいません。

三方に行く機会もあまりないので、おたがいの地域をあまり知らないよさうな気がします。わたしは、三方の人と仲良くなるために、三方の小学校の人と交流をたくさんして、三方のことを知りたいです。若狭町の将来を想像してみると、わたしは東京や大阪のような大都会になつてほしいとは思いません。きれいな景色の三方五湖の周りには、すてきなレストランやかわいいお店がたくさんあつて、熊川宿や名水公園には、静かな町なみや自然が残つていて、よそからも人がたくさん遊びに来てくれて、「こんなところに住んでいる人はいいなあ。わたしもこんなところに住んでみたいなあ。」と言つてもらえたらいいなあと 생각합니다。

## 読書感想文コンクール

県入選

## 「かげまる」がいたら

三年 橋本成生

「かげまる」は、かげの子  
どもです。ぼくは、この本を  
読む前、「かげまる」という  
題を聞いてどんな話か分か  
りませんでした。主人公の「か  
げまる」は、にん者かもしれ  
ないし、もしかしたら船の名  
前かもしれないと思っていま  
した。

読んでみると、かげの子ど  
もが主人公でした。ぼくは、  
かげの中に子どもがいるなん  
て知りませんでした。ぼくは、  
今まで気がつかなかったのか  
なあと、自分のかげを見  
て行ったけど、やっぱり見  
つからなかったです。かげの  
子どもなんているわけないと  
思うけど、もしかして、ぼく  
のかげの子どもも、旅に出て  
いるのかもしれない。

「かげまる」は、けんたく  
んのかげの子どもだったけど、  
けんたくんが、よんでも答え  
てくれなくなつたので、ある  
日旅に出ることにしました。  
かげからかけへとびうつつて  
行きました。

さいしょに友だちになれた  
のは、子犬のコロでした。次  
に新聞配りのまもるさんと友  
だちになりました。まもるさ  
んはようち園の先生になるそ  
うです。ぼくは、コロもまも  
るさんもやさしくてよかつた  
なあと思いました。

そして、次は、こうすけく  
んのかげに入りました。こう  
すけくんは、わざとかげふみ  
をして、かげまるは子どもた  
ちに何度も何度もふまれました。  
ぼくは、いじわるだなあと  
思いました。でも、こうすけく  
んのお父さんが帰ってきて、  
さい後にやさしくなつたので、  
よかつたなあと思いました。

こうすけくんの次はのらね  
こののらきちに出会いました。

のらきちは、あまりやさしい  
ことは言わなかったけど、「か  
げまる」を大事にしていました。  
「かげまる」が家に帰ろうと  
してまい子になった時、たす  
けてくれたものらきちでした。  
のらきちが、けんたくんの家  
につれて行ってくれました。

みんなが「かげまる」にや  
さしくしてくれて、「かげま  
る」もみんなのことがすきに  
なりました。でも、「かげま  
る」が一番すきなのは、やつ  
ぱりけんたくんでした。だか  
ら「かげまる」が一人前にな  
つたとき、これでけんたくん  
のところへ帰れるなあと、思  
うれしかつたです。



## 「歩きだす夏」を読んで

五年 田中愛梨

私は、「歩きだす夏」とい  
う題名を見た時、おもしろそ  
うで、どんな話なのか知  
りたくて、思わず本を開き  
ました。読んでみると、六年  
生の加奈子が、一人でお父  
さんのいる

まい子になってしまつて、ド  
キドキしました。のらきちに  
会つた時にはほつとしました。  
だから、ぼくは、「かげまる」  
が旅に出て友だちになつた中  
では、のらきちがすきです。  
そして、「かげまる」の  
声がかけんたくんに聞こえてよ  
かつたです。かげまるが、旅に  
出て一人前になつたから、け  
んたくんと話せるようになって  
たのだと思います。

ぼくにも、ずつとなかよく  
くらせる「ぼくのかげまる」  
がいるといいなあと、思  
いました。ぼくが一人の時、話  
し相手になつてほしいです。  
それから、しりとりやゲーム  
もいっしょにしたら、楽しい  
だろうなあと、思いました。

北海道へ行く、お話でした。  
おまけに、お父さんとお母  
さんが結婚して、空港に  
むかえていたのは、お父  
さんだけではなく、若い女の  
人も立っていました。私  
まで、こ

れからどうなつてしまふのか  
なあと、ハラハラドキ  
キでした。

この加奈子の家庭は、お父  
さんは、大学の食物研究室で  
働くすごい人で、お母さんは、  
プロのとう芸家を目ざしてい  
る人でした。性格がちがつて、  
加奈子が小学校三年生の時に  
り婚して、それから毎年北海  
道に行くようになりました。

みんなにとつては、北海道に、  
三週間もいないなあと、思  
っている事かもしれないけど、  
加奈子にとつては不幸だつたよ  
うです。私は読んでいて、す  
ぐに分かりました。お父さん  
には、いっしょにくらしている  
女の人がいたからです。お父  
さんの家の洗面所やひきだし  
や小物入れに、花がらのハン  
カチやけしよバッグが入って  
いて、女の人のくらしが、女  
の人とくらしているんだな  
あと、加奈子も思っていたか  
らです。毎年、その事に気づ  
いて北海道に行っていたけど、  
ついに、加奈子はその女の  
人に会つてしまいました。

さよ子さんという女の  
人に会つてから、初めは  
みとめたくなかつたけど、  
ジョン・レノンというさ  
よ子さんがかつて  
いる犬で、二人は仲良  
なりました。私も犬が  
大好きなので、もし私  
がそういう立場

だつたら、お父さんとお母さんのり婚はいやだし、お父さんに好きな人がいるのもいやだけど、犬の好きな人だったら、私も仲良くなるかもしれないなあと思いました。結局、加奈子はお母さんには、さよ子さんの事は言いませんでした。

そして、とう芸にうちこお母さんの事を加奈子は「ママってかっこいい」と言っていた事も、すばらしいと思いました。加奈子は最初は「最悪に不幸だ」と言っていたのに、最後は「最高に幸せだ」といっています。私もそう思います。うまく言えないけれど、人それぞれが、自分が好きな事をして、生きていくという事は、すばらしい事だと思いました。

この本を読んで、強く感じたのは、いろんな人の生き方をみとめる事も、大切なんだなあという事です。そして、加奈子は、少し大人になったような気がします。

私もまだ、しょう来、どんな生き方をするか、何になるか、分からないけど、好きな事を見つけて、チャレンジしていきたいです。そして、何事も、前向きにとらえて、自分にプラスにしていこうと思えました。

## 野木小学校 6年生

# 夢の将来

○僕は、ゲームデザイナーになりたいと思います。理由は、ゲーム等やっているときに、おもしろかったり、よく考えて作ってあったりするからです。僕もおもしろいゲームを作りたいです。

井上真吾

○僕の将来の夢は検事になることです。その理由は、社会が悪くなってきたので、平和な世の中を作りたいからです。

上田光祐

○私の将来の夢は、保育士になりたいと思っています。理由は、小さい子が好きだからです。

小山由利圭

○私の将来の夢は、美容師になるということです。その理由は、美容師の人たちがかみを切っているところをみて、すごいと思ったし、その仕事が楽しそうでやってみたいと思ったからです。

滝 藍花

○ぼくは将来の夢は今あまり考えていないけど、できれば家業の大工を継ごうと思います。

武田一徹

○ぼくの将来の夢はプロ野球選手になりたいと考えています。その理由は野球が好きだからです。

辻本晃士

○私の将来の夢は、まんが家になることです。絵が好きで、四コマまんがも描いていたので、今はこの夢に決めています。

能世穂奈実

○僕の将来の夢はプロ野球選手です。なれるように努力をしています。

則直陽佑

○私は将来、ネイルアートする人になりたいと考えています。理由は、デザインを考えてやるのが楽しそうだったし、ざっしにのっているのを見ていてもきれいだからです。

橋本珠恵

○私の将来の夢は、保育士になることです。その理由は、小さい子が好きだからです。がんばって勉強をして、やさしい保育士になりたいです。

渡辺菜摘

## 平成16年度 野木小学校同窓会会計決算書

## 〔収入の部〕

項目	16年予算	16年決算	増減	備考
繰越金	24,509	24,509	0	
会費	300,000	300,000	0	1,000円×300戸
広告掲載料	310,000	485,000	175,000	
雑収入	491	20,002	19,511	寄付 20,000円 貯金利息 2円
繰入金	0	0	0	
合計	635,000	829,511	194,511	

## 〔支出の部〕

項目	16年予算	16年決算	残額	備考
会議費	30,000	10,739	19,261	会誌編集委員会缶茶等
事務費	24,000	3,911	20,089	会誌送付用封筒、コピー代
通信費	130,000	33,960	96,040	会誌郵送料、会誌寄稿依頼状郵送料等
会誌費	420,000	529,500	△109,500	会誌印刷代(450部)、寄稿謝礼図書券
記念品費	8,500	8,500	0	卒業生記念品 500円×17
総会費	10,000	1,876	8,124	理事総会茶菓子
特別会計費	0	200,000	△200,000	特別会計へ繰り入れ
予備費	12,500	5,525	6,975	饅別、振り込み手数料
合計	635,000	794,011	△159,011	

収入決算額 支出決算額  
829,511円 - 794,011円 = 35,500円 残金35,500円は平成17年度へ繰り越します。

監査の結果、正確に執行されたことを認めます。

平成17年3月21日

監事

橋本武利  
新田義彦

編集後記

野木小学校同窓会報第十七号をお届けすることができました。ご繁忙の中、原稿執筆の依頼を快くお引き受けいただいた会員の皆様、玉稿を誠にありがとうございました。ございました。おかげさまですばらしい紙面となりました。本当に嬉しくお礼を申し上げます。さて、今年は役員任期満了により改選され、次のような異動がありました。

○会長 福井康二

○副会長 伊藤佐栄起・田中肇

○理事 竹村次夫・竹村助雅・宮川尚子・田中秀明・田中敏和・藤田正行・桑原寿和・山形久喜・桑原ハナ・奥本豊・新田昌裕・清水孝弘・植野仁郎・橋本淳治・武田秀行・倉久幸・小谷英典

○幹事 居関正幸・内藤肇

○学校 内藤譲治・宮川直美

昨年度、会誌第五号を送付させていただいたところ、小浜市にお住まいの重田(速水)進五さん(第三十四回卒)と、玉置の松宮喜代勝さん(第五十五回卒)より同窓会発展のために使ってくださいと金一封ご寄付いただきましたので十分活用させていただきます。ご篤志どうもありがとうございました。

会誌第五号には、大変重大な誤りがありました。ここに訂正して衷心よりお詫び申し上げます(津田)誠一さん(第二十七回卒)(小浜市堀屋敷)と、宅間(奥本)義雄さん(第四十一回卒)(京都市

南区西九条島町)は、お元気に生存しておられます。また小野源太郎さん(第九十五回卒)は小野源田郎さんが正しいお名前です。深く反省し、今後このような過ちがおきないように十分配慮する所存です。本当に申し訳ございませんでした。会誌をお持ちの会員さん、お手数ながらご訂正をよろしくお願い致します。

ところで同窓会会員数も二千七百四十名となりました。同窓会の主な事業として毎年の会報や五年に一度の会誌の編集発行があります。会員の皆様には、積極的な投稿等により、活気のある紙面となるよう協力をお願いします。また、印刷・発送の費用は、野木地区にお住まいの皆様から納入いただいている同窓会費から支出されています。例年五十通前後が不明ということで戻ってきています。転居の際には、野木小学校同窓会にも是非ご一報いただけるようお願いいたします。

もう師走になりました。本当に今年も、日本だけでなく、世界的にも台風・地震など大きな自然災害が起きました。これ等は、いつどこで発生するかは予知できません。どうか最小限に、大難を小難に、小難を無難に祈るのみです。日頃の努力や備えも必要ではないでしょうか。どうか来年こそは、よい年となりますよう願い、未筆ながら、会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。